

岡山県金融経済動向

1. 概況

- 県内景気は、弱めの動きとなっている。
- すなわち、最終需要面をみると、設備投資は堅調に推移している。一方、輸出は増勢が鈍化しており、個人消費は弱めの動きが広がっている。また、公共投資、住宅投資は低調に推移している。こうした中、地場企業の企業収益が足もとでは減益幅を拡大する見込みにあり、景況感も一段と悪化している。
- 県内主要製造業の生産活動は、弱めの動きが広がっている。
雇用・所得環境をみると、労働需給が徐々に緩和していく中で、雇用者所得は概ね横ばい圏内にある。

2. 実体経済

(1) 個人消費

- 個人消費をみると、弱めの動きが広がっている。
すなわち、10月の販売動向をみると、百貨店売上高は、食料品は好調なもの、衣料品や身の回り品が不振であったことから、2か月連続で前年を下回った。スーパー売上高も、生活用品や衣料品などが落ち込んだため、前年を下回った。また、乗用車販売では、軽自動車は前年を上回ったものの、普通車、小型車が前年を下回ったことから、全体でも3か月連続で前年を下回った。この間、旅行取扱高は、団体旅行を中心に海外旅行は前年を上回ったが、国内旅行が引き続き低調であったため、全体でも前年を下回った。
一方、家電販売では、映像関連商品を中心に、堅調に推移している。
このほか、主要観光地への入り込みは、一部の先を中心に前年を上回っている。

(2) 設備投資

- 県内企業の設備投資は、堅調に推移している。

すなわち、9月短観調査における20年度の設備投資計画（地場・出先企業計）をみると、製造業では、素材業種が鉄鋼を中心に、加工業種が輸送用機械、食料品を中心に増加することから、全体でも前年を2割弱上回る計画となっている。また、非製造業でも、電気・ガス、運輸、小売などを中心に増加計画となっている。この結果、全産業ベースでは、高水準である前年を1割強上回る計画となっている。

なお、前回調査（6月調査）と比較すると、非製造業は、運輸を中心に小幅の上方修正となったものの、製造業では、素材業種、加工業種ともに下方修正となったことから、全産業ベースでも下方修正となった。

建設投資の先行指標である着工建築物床面積（非居住用〈7～9月〉）は、前年が改正建築基準法施行の影響により落ち込んだ反動もあって、前年を上回っている。

(3) 住宅投資

- 県内住宅投資を新設住宅着工戸数でみると、持家やマンションを中心に需要が弱含んでいることもあって、低調に推移している。9月は、持家、貸家、マンションのいずれも前年を下回った。

(4) 公共投資

- 公共投資は、低調に推移している。発注の動きを示す県内公共工事保証請負額をみると、10月は、「国」、「県」で前年を上回ったものの、「独立行政法人等」、「市町村」、「その他の公共的団体」が前年を下回ったため、全体では前年を下回った。

(5) 輸 出

- 輸出は、増勢が鈍化している。

すなわち、10月の県内輸出（通関実績）をみると、中東欧・ロシア、西欧、中東向けを中心に前年を上回ったものの、伸び率が大幅に低下した。

(6) 生産・出荷・在庫

- 9月の県内鉱工業生産指数（直近計数）の季調済前月比は、輸送機械、一般機械、電気機械を中心に上昇したことから、全体では3か月連続の上昇となった。

この間、出荷指数（季調済前月比）は、輸送機械、石油・石炭製品、化学を中心に低下したことから、全体では2か月振りの低下となった。また、在庫指数（前年同月比）は、輸送機械、一般機械、石油・石炭製品を中心に、2か月振りの上昇となった。

- 県内主要製造業の最近の生産動向（10業種、付表参照）をみると、造船は、豊富な受注残を背景に高操業を継続しているほか、耐火物でも、大手メーカーを中心に高めの生産を続けている。一方、鉄鋼は、なお高めの生産となっているが、水準は低下しており、自動車は、増勢が鈍化している。工作機械は、企業間でばらつきがみられるものの、生産水準が徐々に低下している。この間、電気機械では、携帯電話向け部品等の落ち込みを背景に、生産が減少している。石油精製は、需要が落ち込む中、一部先で定期修理を実施していることもあって、生産水準が低下しており、石油化学は、減産を強めている。このほか、繊維は、安価輸入品との競合や海外への生産シフトなどから、全体として低水準にある。また、農機具は、生産が持ち直している。

(7) 雇用・所得

- 労働需給面をみると、10月の有効求人倍率は、高水準となっているものの、徐々に低下している。一方、9月の所定外労働時間は、前年を上回った。雇用面をみると、9月の常用労働者数は、前年を上回った。この間、10月の解雇者数は高めの水準にあるが、雇用保険受給者数は、前年を下回っている。このように、県内の雇用関連指標は、足もとでは弱めの動きがみられる。

賃金をみると、9月の一人当たり現金給与総額は、前年を下回った。

この結果、雇用者所得は、概ね横ばい圏内にある。

(8) 物 価

- 9月の岡山市消費者物価指数（平成17年基準、生鮮食品を除くベース）は、生鮮食品を除く食料、光熱・水道、交通・通信などで前年比上昇率が高いため、全体でも高めの前年比上昇率となっている。

(9) 企業倒産

- 10月の県内企業倒産（東京商工リサーチ調べ、負債総額10百万円以上）をみると、倒産件数、負債総額ともに前年を下回った。

3. 金 融

(1) 実質預金等

- 10月の県内実質預金をみると、個人預金がほぼ前月並みのプラス幅となる中、公金預金は前年比プラスに転化したものの、法人預金の伸び率が低下したことから、実質預金全体の伸び率は低下した。

なお、地元10行庫の預り資産をみると、市況悪化の影響から投資信託の残高が前年比マイナスに転化しているものの、保険商品は引き続き高い伸び率となっている。

(2) 貸 出

- 10月の県内貸出をみると、個人向けが前年比伸び率を若干縮小させたものの、企業向けが前年比プラスに転じたほか、地公体向けが伸び率を拡大させたことから、貸出全体の伸び率も前年比プラスに転化した。

(3) 貸出約定平均金利

- 10月の新規貸出約定平均金利（総合ベース）は、前月比上昇した。一方、ストック金利（同）は、前月比低下した。

以 上

内容についてのご照会は下記までお願いします。

〒 700-8707 岡山市丸の内1-6-1 日本銀行岡山支店 総務課

TEL 086-227-5111（代表）

FAX 086-227-6350

ホームページアドレス <http://www3.boj.or.jp/okayama/>

主 要 製 造 業 の 生 産 動 向

業 種	足 も と の 動 向
自 動 車	増勢が鈍化している。 世界経済の減速を主因に、 <u>輸出向け生産</u> 、 <u>国内向け生産</u> ともに足もとで増勢が鈍化している。また、部品メーカー等の県内関連先についても、生産に弱めの動きが広がっている。
造 船	豊富な受注残を背景に、高操業が続いている。 <u>造船部門</u> では、外航船を中心に豊富な受注残を抱えており、高操業を続けている。また、 <u>非造船部門</u> でも、中・小型船舶向けディーゼルエンジンの生産が高操業を続けている。
石油精製	需要が落ち込む中、一部先で定期修理を実施しているため、原油処理量は大幅に減少している。 製品別にみると、 <u>ナフサ</u> は定期修理によりやや低めの生産水準となっている。 <u>ガソリン</u> は、需要が伸び悩んでいるため、やや低めの生産水準となっている。 <u>軽油</u> は、外需の落ち込み等を背景に一部先で減産を行っているため、生産水準が低下している。 <u>灯油留分</u> は、灯油は燃料転換の進捗や暖冬予想もあって、弱含んでいるものの、ジェット燃料が輸出向けの増加から堅調に推移しているため、高めの生産水準となっている。一方、 <u>重油</u> は、生産量が減少傾向にある。
石油化学	内外需要が落ち込んでいるため、減産を強めている。 製品別にみると、 <u>ポリエチレン</u> では、需要に弱さがみられるため、低めの生産水準となっている。 <u>プロピレン</u> でも、自動車向けを中心に需要に弱さがみられていることから、やや低めの生産水準となっている。一方、 <u>スチレンモノマー</u> 、 <u>ポリスチレン</u> は、国内、海外ともに需要が落ち込み、採算も悪化しているため、生産水準を一段と引き下げている。
鉄 鋼	粗鋼生産量は、なお高めとなっているが、水準は低下している。 製品別の動向をみると、 <u>薄板類</u> は、自動車・家電向けで需要に弱めの動きがみられるため、生産水準がやや低下している。 <u>厚板類</u> は、造船メーカー向けを中心に需要が堅調に推移しており、高水準の生産を続けている。 <u>形鋼類</u> は、内外ともに需要が減少しており、生産水準がやや低下している。 <u>棒鋼類</u> は、建設向けで需要が落ち込んでいるものの、自動車向けがなお堅調に推移しているため、全体としては高めの生産水準となっている。
耐 火 物	大手メーカーを中心に高めの生産が続いている。 大手メーカーでは、主力取引先である鉄鋼メーカー等からの受注が堅調に推移している。また、中小メーカーでも、安価輸入品との競合が続いているものの、需要が堅調に推移している。
電気機械	携帯電話向け部品等の落ち込みを背景に、減少している。 製品別にみると、 <u>電子部品</u> は、携帯電話向けやデジタルカメラ向けで生産水準を引き下げているほか、液晶関連もやや弱めの動きとなっている。また、 <u>スイッチ</u> でも、携帯電話向けで生産水準を引き下げている。この間、 <u>デジタルビデオカメラ</u> は、新製品の投入が一巡したことに加え、海外需要が減少していることもあって、生産水準は低下している。
織 維	全体としては低水準の生産が続いている。 製品別にみると、 <u>綿織物</u> 、 <u>合繊織物</u> 、 <u>ジーンズ</u> は、安価輸入品との競合などから、生産量は減少している。また、 <u>作業服</u> は、海外拠点への生産シフトを背景に、月々の振れを伴いながら、低調な生産が続いている。一方、 <u>学生服</u> は、少子化の影響によって市場は長期的には縮小傾向にあるものの、足もとの需要は安定しており、生産水準は横ばいとなっている。
工作機械	企業間でばらつきがみられるものの、生産水準は徐々に低下している。 <u>NC旋盤</u> 、 <u>MC (マシニングセンター)</u> ともに、自動車関連、一般機械関連の新規受注が減少しており、企業間にばらつきがみられるものの、全体として生産水準は徐々に低下している。
農 機 具	生産は持ち直している。 製品別にみると、 <u>コンバイン</u> で、生産が持ち直しているほか、 <u>携帯用刈払機</u> では、一部の先で豪州を中心とした海外向けが増加しているため、全体の生産水準は高めとなっている。もつとも、末端需要が依然として低迷していることから、先行きについては慎重な見方が多い。